

家畜改良センター茨城牧場 暑熱対策マニュアル (分娩豚舎)

第2版

令和3年6月

1 暑熱によって発生する問題

- (1) 母豚の食滞
- (2) 母豚の泌乳量の低下
- (3) 子豚の圧死
- (4) 熱中症による妊娠母豚の死亡

2 飼養管理による対策

適温が異なる子豚と母豚が住み分けられる温度環境を作ることが重要である。

- (1) 母豚の飼養管理（適温：18℃前後）
 - ア 観察回数を増やす（呼吸・体温・外貌観察による異常の早期発見）。
 - イ 給餌回数を増やす、涼しい時間帯に多めに餌を与える（給餌方法の調整）。
 - ウ 特に呼吸回数が多い豚については、個別で扇風機を設置する（ただし、風は直接当てない。）。
 - エ 食べない豚には、水でもどしたヘイキューブや油脂の添加飼料を与える。
 - オ よく水を飲ませる。
- (2) 子豚の管理（適温：38℃～25℃（日齢による））
 - ア 保温箱にはコルツヒーターを設置する（ガス保温はしない。）。
 - イ 保温箱を覚えさせる（圧死の防止）。

3 豚舎環境による対策

- (1) 日常管理
 - ア 吸気ファンと排気ファンを稼働させる。
 - イ 窓の開放や扇風機の稼働により、空気の流れを作る。
 - ウ 熱帯夜の時期は、夜間も窓を開放し、吸気・排気ファンを稼働させる。
 - エ 分娩兆候が見られない豚については、日中コルツヒーターの電源を切る。
 - オ 凍らせたペットボトルでドリップクーリングを行う。
 - カ 最も気温が上昇する時間帯に給水機の水交換を行い、常に冷水が満たされている状態にする。
- (2) 豚舎の対策
 - ア 寒冷紗を設置する。
 - イ 屋根に石灰乳を散布する（温度上昇を緩和させる。）。

4 屋根への石灰乳の散布方法

- (1) 石灰乳 1 袋、のり剤、水で分娩豚舎 2 周分。
- (2) H28 年度、R 2 年度に 1 度ずつ実施。はげてきたら、随時、塗り直しを行う。
 - ・ 作業時間：1.5 時間程度、作業者：3 名（必須）
 - 1 名：フォークリフト運転（高所作業カゴ）
 - 1 名：運搬車運転（石灰乳タンクと動力噴霧器）安全確認担当
 - 1 名：石灰乳噴霧作業（高所作業カゴ内安全带使用）※マスク・メガネ・手袋着用。

5 寒冷紗の設置

- (1) 地面にポールを埋め、支柱にする(H28 実施済)。
- (2) 黒いシート（20m 巻）の上部を針金で豚舎側に固定する(H28 実施済)。
- (3) シートを伸ばし、シートの下部を支柱側に針金で固定する。

6 ファンの稼働について

- (1) スイッチ
 - ア 吸気ファン：各区画の配電盤にスイッチがある。
 - イ 排気ファン：東側ファン 2 台は 1 区画の前の壁にスイッチがある。
西側のファン 2 台は豚舎奥の配電盤にスイッチがある。
- (2) 豚の頭数や室温に合わせて、稼働させるファンを調整する。
- (3) 子豚は、室温が高い状態であっても、空気の流れによって寒さを感じるため、保温箱とゴムマットで風をよけられる空間を確保する。
室温だけでなく、以下のとおり子豚の寝姿で適温を判断する。

【子豚の寝姿と温度】



（適温）子豚が重ならず寝る。



（寒い）子豚が積み上がるように寝る。

7 扇風機の設置

- (1) 通常時は、母豚が立ったとき背中に少し風が当たる高さで扇風機を回し、豚舎全体の空気を回すようにする。
- (2) 分娩が近い母豚や呼吸が特に荒くなっている母豚については、扇風機を設置し、優先的に風を当てるようにする。ただし、豚の体に直接風を当てないようにする。

8 ドリップクーリングの方法

- (1) 冷凍庫でペットボトルを凍らせる。
- (2) 首もとに溶けた水が垂れるよう、豚房柵上部にペットボトルを固定する。
- (3) 水が耳に入らないか確認する。
- (4) ドリップクーリングの実施は原則日中のみとする。

9 熱中症の母豚の対応

- (1) 風を当て、体温を下げる。
- (2) 水・経口補水液を飲ませる。
- (3) 冷やした酢酸リンゲル液を点滴する。

(以上)